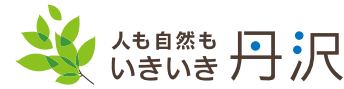


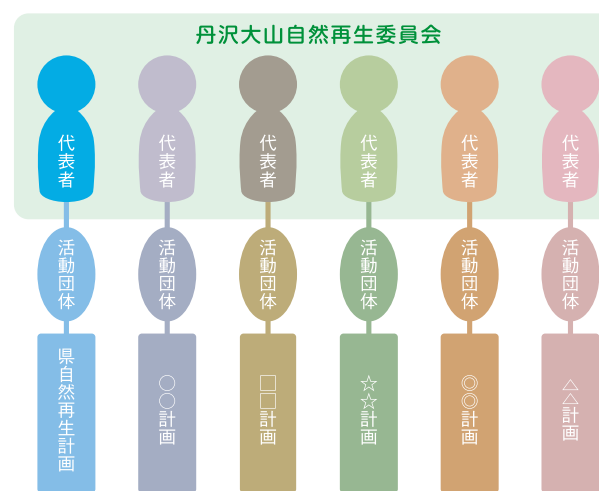
丹沢大山自然再生委員会について



丹沢大山自然再生委員会は、「丹沢大山自然再生基本構想」を受け、丹沢で活動する団体、企業、マスコミ、専門家、行政などが参画して、平成18年に設立されました。

神奈川県自然再生事業や新たに企業が取り組む自然再生プロジェクトなど、多様な主体の協働による自然再生事業の評価と支援を行っています。

また丹沢の自然環境の保全・再生を目指して団体や企業などが行う県民参加型の活動やイベントについて共催・後援しています。神奈川県も一員として参加し、丹沢大山自然再生計画について評価を受けるとともに、同委員会と連携・協働して、丹沢大山の自然再生に関する普及啓発や情報提供などに取り組んでいます。



丹沢大山自然再生委員会と県の連携・協働



委員会が団体等との共催で行う現地学習など普及啓発事業に参画・協力しています。



委員会と学校教育との連携による体験学習等に参画・協力しています。



委員会構成員が取り組む自然再生プロジェクトの企画・実施に協力しています。



委員会とともに公開シンポジウム等を共催しています。

神奈川県自然環境保全センターの紹介



自然環境保全センター



野外での自然観察



丹沢大山の自然を紹介する展示

神奈川県自然環境保全センターは、東丹沢山麓の厚木市七沢にある神奈川県の機関です。

ブナ林の再生やシカの管理などに関する調査研究や事業、ボランティアとの協働連携や自然に関する普及啓発など、丹沢大山をはじめとした自然環境の保全・再生の取り組みを行っています。

県産木材を使って建てられた本館には、丹沢大山の自然を紹介するミニシアターやジオラマ(模型)などを備えた展示室があり、子どもから大人まで楽しく丹沢大山の自然を学べます。

小川や雑木林が広がる野外の自然観察園には、カワセミなど里山の多様な生き物が生息し、身近な自然を楽しむことができます。

第2期計画の主な事業の実施状況



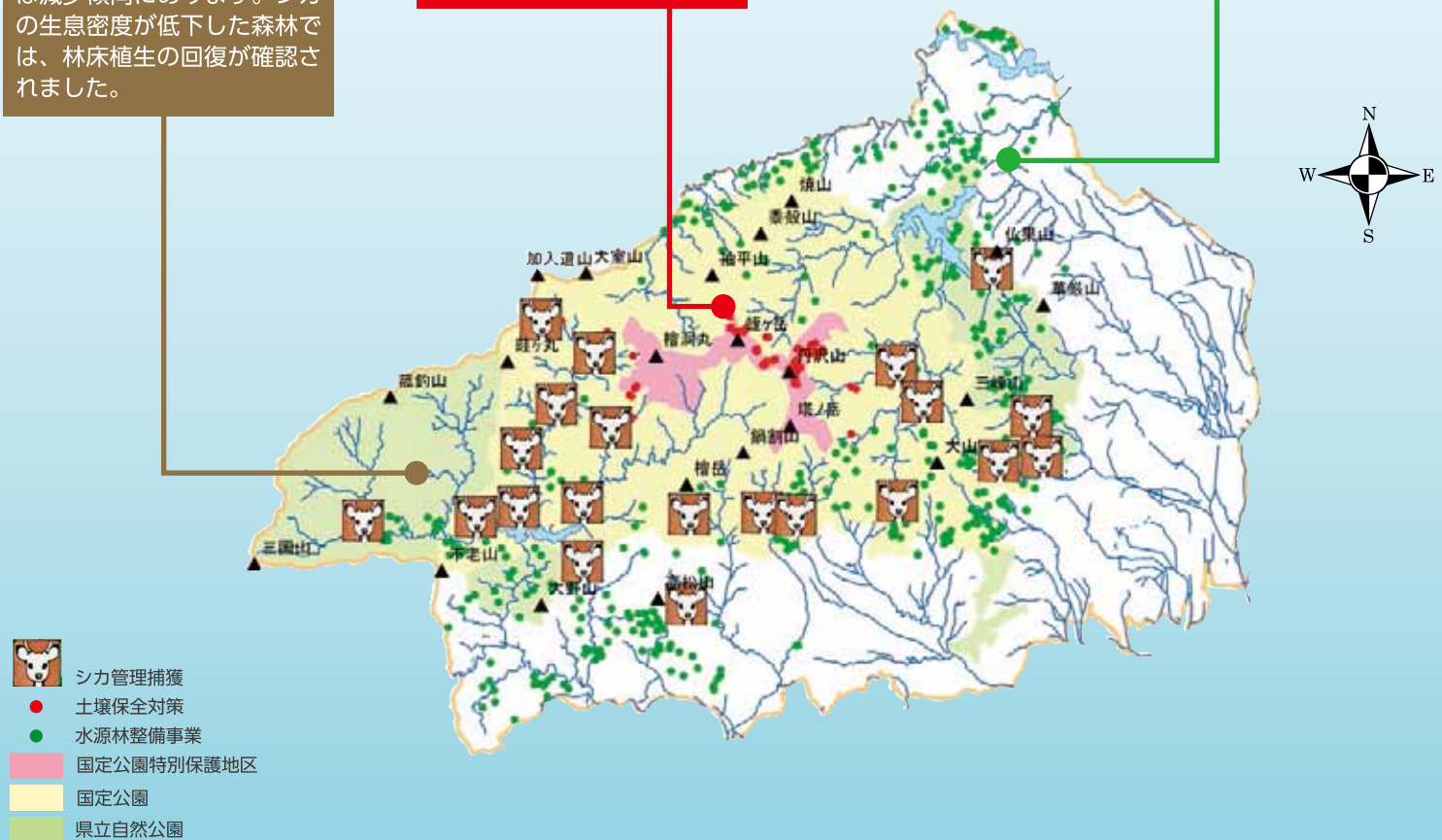
シカの管理捕獲、ワイルドライフレンジャーの配置による高標高の山稜部等での管理捕獲、中標高での森林整備と連携したシカ管理捕獲を実施したこと等によりシカの生息数は減少傾向にあります。シカの生息密度が低下した森林では、林床植生の回復が確認されました。



登山道に構造型階段を設置したことで、登山者が地面を踏まないことから、土の中にあつた種子や周辺の木々からの種子が自然に芽吹き、草木が回復しました。



森林整備(間伐、植生保護柵の設置)及びシカの管理捕獲を連携して実施したところ、林床植生が増加しました。



自然環境・自然再生情報の発信

丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)により、自然環境や自然再生に関する情報を蓄積、発信するとともに、丹沢大山自然再生委員会ホームページとも連携して情報を発信しています。

e-Tanzawa
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f48/>

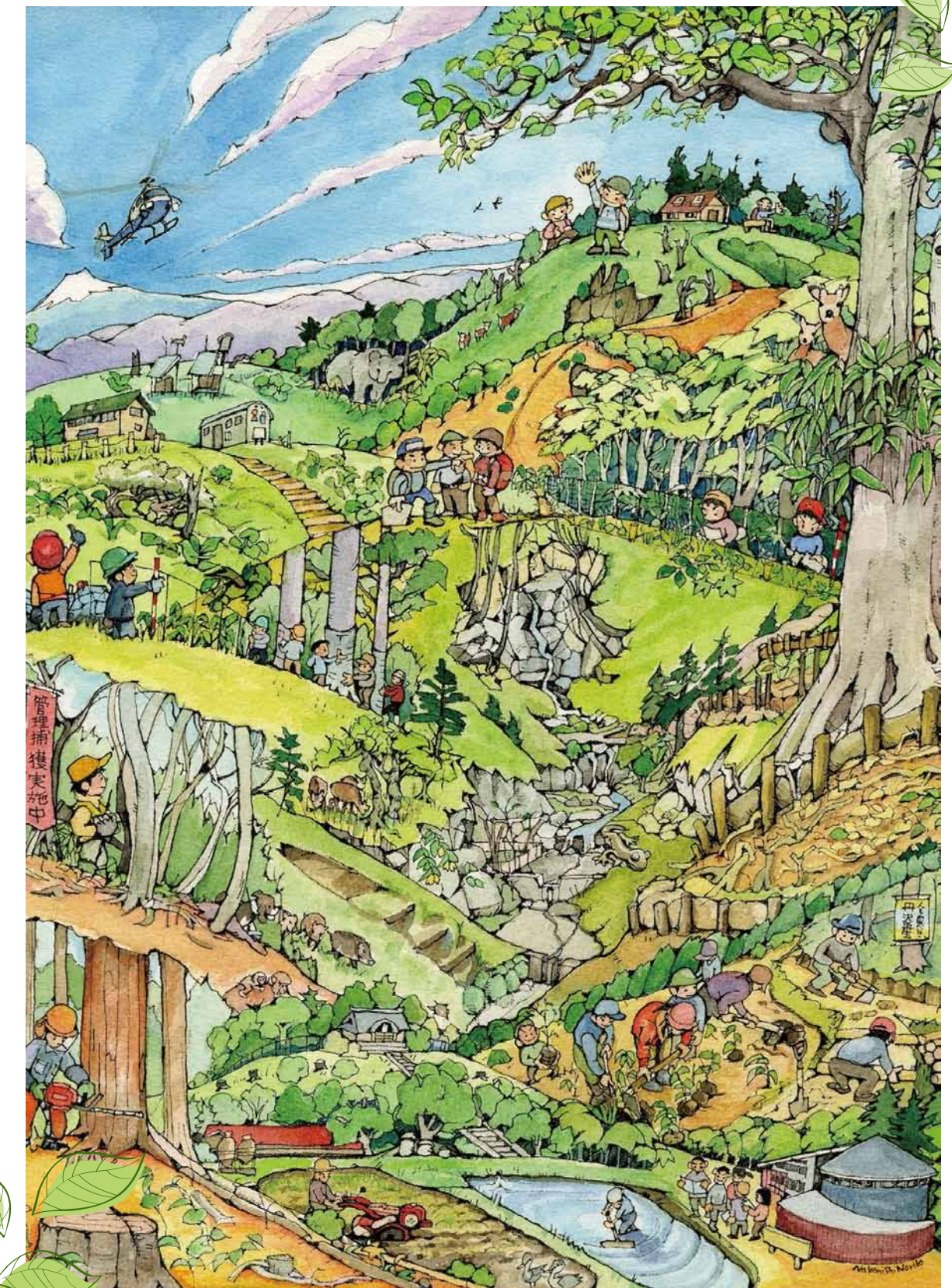
丹沢大山自然再生委員会ホームページ
<http://www.tanzawasaisei.jp/>

お問い合わせ

神奈川県自然環境保全センター研究企画部自然再生企画課
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 657
TEL.(046) 248-0323 (代表)
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535155/>

表紙イラスト/中西のりこ

TANZAWA 丹沢大山自然再生計画



平成29年3月 神奈川県

丹沢大山自然再生計画について

丹沢大山自然環境の衰退

首都圏の自然の宝庫として親しまれる丹沢では、1980年代から生態系に変化があらわれ、モミヤブナの立ち枯れ、植生の衰退、人工林の荒廃が深刻化しています。



丹沢大山総合調査

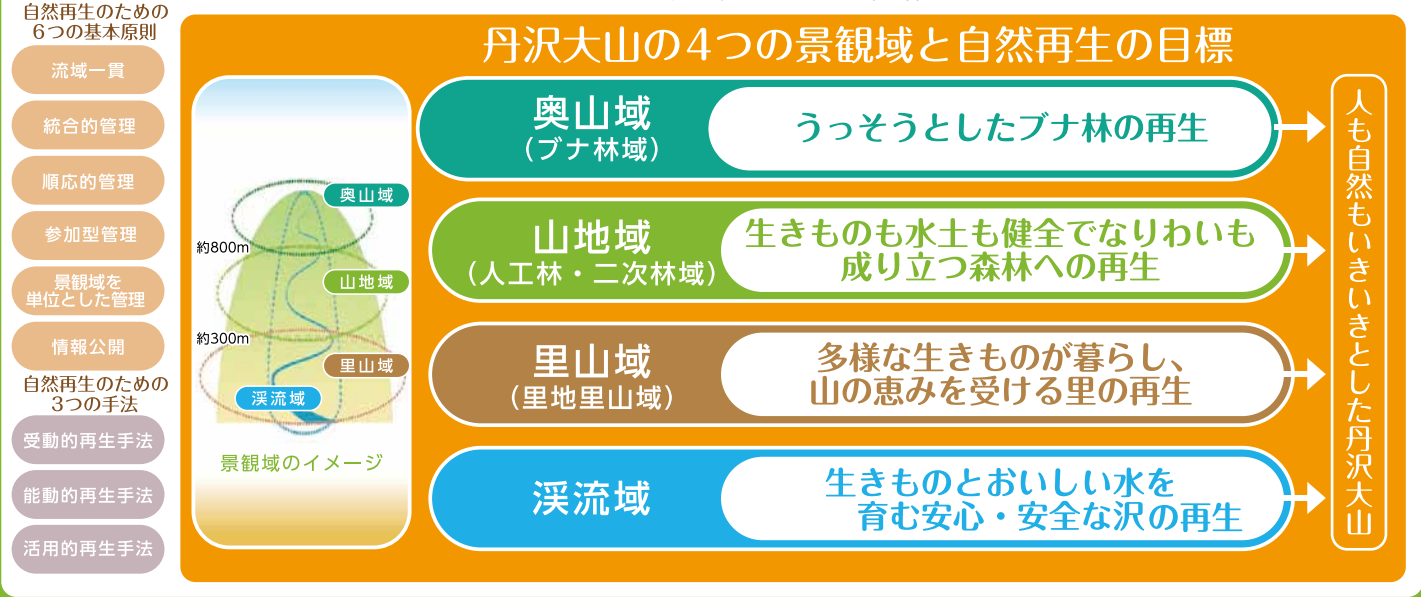
平成16年度から17年度にかけて県民、学識者、企業など多様な主体による「丹沢大山総合調査」が行われました。その結果、「自然環境の劣化は、人間の営みの影響が積み重なり複雑に絡み合って引き起こされている」ことが明らかとなりました。

調査結果をもとに、平成18年6月に自然再生の基本原則や目標、解決すべき課題と対策、実行体制などをまとめた「丹沢大山自然再生基本構想」が策定され、「丹沢大山自然再生委員会」のもとで多様な主体の協働による丹沢大山自然再生の取組がスタートしました。神奈川県では、丹沢大山自然再生基本構想に基づき「丹沢大山自然再生計画」を策定し、様々な取組を進めています。

丹沢大山自然再生委員会

丹沢大山自然再生基本構想により丹沢大山の自然再生に向けた基本方向を提示し、県、団体、企業などが取り組む事業をPDCAサイクルにより評価

丹沢大山自然再生基本構想



計画策定・実行・見直し (PDCAサイクル) 実施状況の評価

国・市町村

関連する計画や事業等を実施

神奈川県

丹沢大山自然再生基本構想に基づいて「丹沢大山自然再生計画」を策定し、8つの特定課題の解決を目指す事業を実行しています。

丹沢大山自然再生計画

計画期間：(第1期)平成19年4月～24年3月 (第2期)平成24年4月～29年3月 (第3期)平成29年4月～34年3月

8つの特定課題



団体・企業

活動団体や企業がそれぞれの活動や自然再生計画を実施

第2期計画までの取組状況

奥山域での取組

ブナ林衰退機構の解明と再生技術の実施

衰退しているブナ林等の再生のために、各種調査研究等によるブナ林の衰退機構の解明や、ブナ等が枯れてしまった箇所での森林再生試験等を行ってきました。その結果、大気汚染(オゾン)、水ストレス及びブナハバチの食害などの複合影響によるブナ林衰退の仕組み等が概ね明らかとなり、ブナ林再生のための技術開発が進展しました。

土壌流出防止対策(植生保護柵含む)・シカ管理捕獲の実施

シカの過密化により林床植生が衰退している場所などで、植生保護柵等の土壌流出防止対策やシカの管理捕獲を実施してきました。その結果、対策実施箇所で植生回復が見られるなどの成果が出てきています。

(第2期計画までの取組内容)



シカの過密化等により植生の回復が困難だった治山事業施行地 2004年5月 堂平沢 撮影：鈴木雅一

ブナ再生技術の開発(例：粘着シートによるブナハバチの幼虫の捕獲)

土壌流出防止対策(シカ管理捕獲の実施)

土壌流出防止対策(植生保護柵の設置)

各種取組により植生の回復が進んでいる状況 2014年6月 堂平沢 撮影：鈴木雅一

山地域での取組

シカ管理と連携しながら地域特性にあわせた人工林整備を実施

シカの管理捕獲と連携しながら、スギ・ヒノキと広葉樹との混交林化や、森林資源の活用による持続的な森林管理を進めてきました。その結果、一部地域で植生回復も見られるようになってきています。



手入れ不足の人工林



シカ管理捕獲を実施した整備地

里山域での取組

地域主体の鳥獣被害対策等への支援・協力

地域住民や関係団体が連携して行う鳥獣被害対策や里地里山保全等への支援を進め、いくつかの地域では、地域主体の取組が促進されました。



地域住民による鳥獣被害対策検討会

渓流域での取組

溪畔林整備

溪畔林整備の技術確立に向けて、県有林内の溪畔沿い人工林の整備とモニタリングを行い、初期段階の整備技術を蓄積できたことから、「溪畔林整備の手引き」として、取りまとめました。



整備された溪畔人工林

景観域全体にかかる取組

県民協働の取組促進

植生保護柵による希少植物保全や外来種に関する情報収集等を行ってきました。また、自然公園の利用に当たってのマナー等の普及啓発を行うとともに、団体等との協働による登山道補修などの取組を進めました。



登山道補修活動



山ゴミ清掃活動

第3期計画における取組

●：重点事業
◎：実施可能性検討(フィジビリティスタディ)

奥山域(ブナ林域)



これまでの調査研究や技術開発の成果を活用したブナ林の再生の取組を実施します。また、生息状況に応じたシカ管理捕獲を継続するとともに、対策が必要な箇所を把握しつつ、人工林も含めて土壌保全対策を進めます。

景観域に特有の特定課題

ブナ林の再生

- ブナ林(奥山域自然林)の保全・再生対策
- ブナ林(奥山域自然林)生態系の健全性評価の実施
- 大規模キャップにおける森林再生技術の検証
- ◎ 奥山域におけるシカの管理捕獲
- ブナハチ防除技術の検証
- ◎ 林床植生衰退地等での土壌保全対策の実施
- 植生保護柵による希少植物の保全

構成事業

山地域(人工林・二次林域)



地域特性に応じて、人工林におけるスギ・ヒノキと広葉樹との混交林化や、森林資源の持続的な活用による森林管理に向けた森林整備を、シカ管理捕獲と連携しながら実施します。

景観域に特有の特定課題

人工林の再生

- 公益的機能を重視した混交林等への転換
- 森林資源の活用による持続可能な人工林の整備
- ◎ 森林整備とシカ管理の連携
- 県産木材の有効活用の促進
- 林道の改良と作業道の整備
- ◎ 森林モニタリングの実施

構成事業

里山域(里地里山域)



地域住民や関係団体が連携して行う鳥獣被害対策や里地里山保全等への支援を継続するとともに、地域特有の課題に応じた森林整備等に対して支援を行い、地域一体の活動を推進します。

景観域に特有の特定課題

地域の再生

- ◎ 地域主体の鳥獣被害対策や、地域特有の課題に応じた森林整備等の実施の支援
- ◎ 地域が一体となった自然再生活動への協力
- 里地里山の保全・再生・活用
- 環境保全に配慮した農業の推進

構成事業

渓流域



「溪畔林整備の手引き」としてまとめた技術を普及して、私有林を含めた渓流沿いの人工林の整備に活用するとともに、整備地でのモニタリング等を通して渓流生態系の保全手法について検討します。

景観域に特有の特定課題

渓流生態系の保全・再生

- ◎ 渓流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討
- ◎ 魚類等による渓流環境の評価手法の検討
- ◎ 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討
- ダム湖上流等における土砂流入防止対策
- 森林土壌保全による渓流への土壌流入防止対策
- 溪畔林の整備

構成事業

景観域に共通する特定課題

シカ等野生動物の保護管理	希少動物の保全	外来種の監視と防除	自然公園の利用のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 奥山域におけるシカの管理捕獲 ● 植生保護柵等の効果的設置 ◎ 森林整備とシカ管理の連携 ● シカの定着の解消のための捕獲 ● 地域が主体となった被害対策等の推進 ◎ 野生動物の保護管理手法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 希少動物の保全手法・対策の検討 ◎ 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討 ● 植生保護柵による希少植物の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ● アライグマ等の外来生物の情報収集と監視 ● 丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成 ◎ 生物多様性に配慮した緑化手法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 登山道等の整備・維持管理 ◎ 団体等との協働による登山道維持管理の実施 ◎ 環境配慮型山岳トイレの整備・維持管理 ◎ かながわパークレンジャー・神奈川県自然公園指導員等による普及啓発活動 ● 神奈川県立ビジターセンター等を拠点とした普及啓発活動 ◎ 自然公園における利用のあり方の検討

各特定課題の取組を推進するための 協働・普及啓発		構成事業
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然再生プロジェクトの推進 ◎ 団体等との協働による自然再生の取組の推進 ◎ 学校教育との連携による自然再生の担い手づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 丹沢大山クローンピア 21、丹沢の緑を育む集い、丹沢大山ボランティアネットワーク等による連携・協力 ◎ 神奈川県自然環境保全センターの自然再生活動への活用 ◎ 神奈川県自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進 (e-Tanzawa)の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然再生情報の提供と丹沢大山自然環境情報ステーション

成果を踏まえた着実な実施